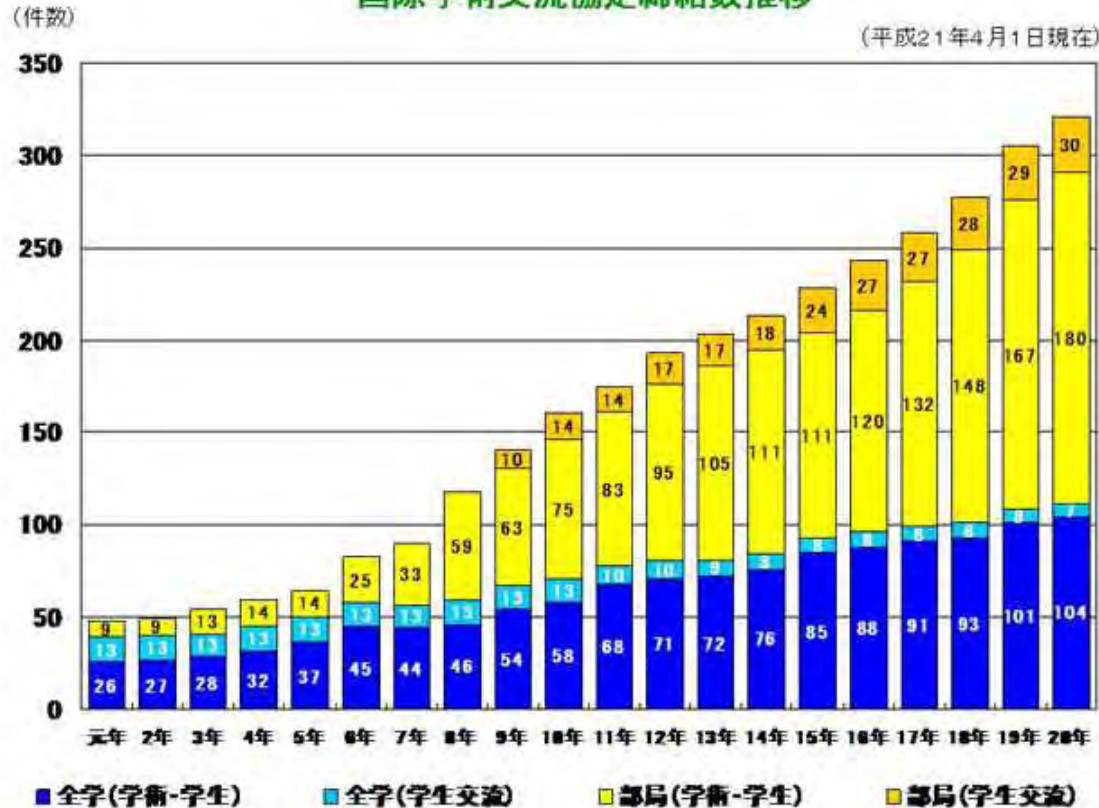


3. 多大学間交流・協力事業

(4) 国際学術交流協定締結数推移

国際学術交流協定締結数推移



東大フォーラム2009の様子

(5) 東大フォーラム(2007年度まではUT Forumとして開催)



海外の著名な大学等と連携し、東京大学における学術研究の展開や成果、研究者の活動等を広く海外に発信するとともに、研究者・学生交流を促進しています。
現在まで下記のフォーラムが開催されています。

東大フォーラム 2009 in the UK

開催日: 2009年4月27日-30日

開催地: 英国

テーマ:

- ・Human Security and Business: Focusing on Conflicts: Movement of People and Governance
- ・Role of Nuclear Energy for Sustainable Development; Harmonization of nuclear utilization with society
- ・Disability and Economy: Creating a Society for All

協力機関等: ケンブリッジ大学、インペリアルカレッジ・ロンドン、シティユニバーシティ・ロンドン

マンチェスター・メトロポリタン大学、日本学術振興会

UT Forum 2007 in Seoul

UT Forum 2005 in Beijing

UT Forum 2004 in Sweden

UT Forum 2002 in Singapore

UT Forum 2000 in Silicon Valley and the Bay Area

UT Forum 2000 in Boston

(1) IPMU数物連携宇宙研究機構の概要

世界トップレベル国際研究拠点形成促進プログラムに選定され発足した教育研究組織です。現代基礎科学の最重要課題である暗黒エネルギー、暗黒物質、統一理論(超弦理論や量子重力)等の研究を数学、物理学、天文学の連携により進め、宇宙の起源と進化の解明を目指す融合型研究拠点です。

平成20年度のデータ

- 国際会議7回、セミナー146回
- **ビジター372人** (海外から103人)
- 研究者総数125人, 48%外国人
- 事務スタッフ提案の30人を上回る
- 発足以来論文数**170本**
- *Nature, Science, Physical Review Letters*
- 数物共同論文5本
- 数学雑誌に物理学者の論文、
物理雑誌に天文学者の論文
- **メディア登場81件**

月毎のビジター数



Maxim Kontsevich
フィールズ賞

(2) 医学教育国際協力研究センター の国際協力の取り組み

治安の悪さや貧困に苦しむ国へ、東大から出向いての取り組みに
大きな価値がある！

JICAアフガニスタン医学教育プロジェクトの取り組み

カブール医科大学(KMU)における総合臨床医(GP)養成型の医学
教育システムを実施。KMU内に東大の共同研究拠点、
Collaborating Research Centreを立ち上げ。

2007年12月より、ラオスセタティラート大学病院医学教育研究
強化プロジェクトを国際協力機構より受託、臨床実習(クリニカル・ク
ラークシップ)改善に取り組んだ。



(3) 高齢社会総合研究機構 国際連携活動



IARU
(International Alliance of Research Universities)
「高齢化と健康」研究チームへの参加

国際会議の主催
日本-スウェーデン国際会議

若手研究者の交流・育成
アジア・オセアニア若手研究者国際ワークショップの主催/共催

IAGG
(International Association of Gerontology and Geriatrics)との連携

WEF
(World Economic Forum)
(通称)ダボス会議
Global Aging Council
リーダー校



日本-スウェーデン国際会議「ジェロントロジー」

・スウェーデンと日本のジェロントロジー研究者、実務者を交えたシンポジウム、ワークショップを開催予定(2009年10月7~9日)

・「超高齢社会の政策」「医療・福祉システム」「新しい産業の可能性」の3つのテーマで、日本とスウェーデンの最新研究発表、課題の共有、共同研究の可能性に関する討議を行う



アジア・オセアニア若手研究者ワークショップ

HORIBA-APRU Research Conference 2008: Strategies for "Aging in Place"

・2008年9月8~12日、アジア地域を中心に、高齢社会や高齢者の諸問題を扱っている若手研究者が集結し、将来にわたる研究ネットワークを立ち上げることを目的とした国際会議を主催。共通テーマに「Aging in Place(住み慣れた地域で上手に老いる)」を設定し、各国の抱える課題を共有した。
・研究発表、施設見学等を行い、最終的には国際的研究グループによる研究企画コンペティションを実施した。会議終了後も若手研究者間の交流は継続、自発的な国際共同研究プロジェクトが複数立ち上がっている

SNU-UT Joint Conference 2009: "Challenges and Opportunities of Aging Asia"

・本年は、2009年10月19-23日、第2回会議を韓国ソウル国立大学との共催で第2回会議を開催予定。18カ国から約50名が参加予定

(4) グローバルCOE 東京大学採択拠点

グローバルCOE一覧

No.	担当部局	分野	プログラム名称	拠点リーダー	中核となる専攻等名	備考
1	医	生命科学	生体シグナルを基盤とする統合生命学 Integrative life science based on the study of biosignaling mechanisms	宮下 保司	大学院医学系研究科 機能生物学専攻	平成19年度採択課題
2	理	化学・材料科学	理工連携による化学イノベーション Chemistry Innovation through Cooperation of Science and Engineering	中村 栄一	大学院理学系研究科 化学専攻	〃
3	工	情報・電気・電子	セキュアライフ・エレクトロニクス (Secure-Life Electronics)	保立 和夫	大学院工学系研究科 電子工学専攻	〃
4	工	学際・複合 ・新領域	世界を先導する原子力教育研究イニシアチブ Nuclear Education and Research Initiative	岡 芳明	大学院工学系研究科 原子力国際専攻	〃
5	人	人文科学	死生学の展開と組織化 Development and Systematization of Death and Life Studies	島菌 進	大学院人文社会系研究科 基礎文化研究専攻	〃
6	教養	人文科学	共生のための国際哲学教育研究センター (The University of Tokyo Center for Philosophy (UTCP))	小林康夫	大学院総合文化研究科 超域文化科学専攻	〃
7	病院	医学系	疾患のケミカルバイオロジー教育研究拠点	門脇 孝	大学院医学系研究科 内科学専攻	平成20年度採択課題
8	医科研	医学系	ゲノム情報に基づく先端医療の教育研究拠点	清木 元治	医科学研究所 ヒトゲノム解析センター	〃
9	工	数学、物理学、地球科学	未来を拓く物理科学結集教育研究拠点	樽茶 清悟	大学院工学系研究科 物理工学専攻	〃
10	工	機械、土木、建築、その他工学	都市空間の持続再生学の展開	藤野 陽三	大学院工学系研究科 都市工学専攻	〃
11	工	機械、土木、建築、その他工学	機械システム・イノベーション国際拠点	光石 衛	大学院工学系研究科 産業機械工学専攻	〃
12	工	学際・複合・新領域	学融合に基づく医療システムイノベーション	片岡 一則	大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻	〃
13	数理	数学、物理学、地球科学	数学新展開の研究教育拠点	川又 雄二郎	大学院数理科学研究科 数理科学専攻	〃
14	法学	社会科学	国家と市場の相互関係におけるソフトロー	岩村 正彦	大学院法学政治学研究科 総合法政専攻	〃
15	経済	社会科学	ものづくり経営研究センター アジア・ハブ	藤本 隆宏	大学院経済学研究科 経営専攻	〃
16	医	学際・複合・新領域	次世代型生命・医療倫理の教育研究拠点創成	赤林 朗	大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻	〃
17	新領域	学際・複合・新領域	ゲノム情報ビッグバンから読み解く生命圏	森下 真一	新領域創成科学研究科 情報生命科学専攻	平成21年度採択課題

(5) JST-JICA 地球規模課題対応国際科学技術協力事業

地球規模課題対応国際科学技術協力事業における平成21年度新規採択研究課題(21件)より

研究代表者のうち東大所属: 下記2名

ほかに国内共同研究機関のうち「東京大学」: 7件

環境・エネルギー分野 研究領域1 [領域特定型] 「気候変動の適応又は緩和に資する研究」					
研究課題名	研究期間	研究代表者名(所属機関・役職)	国内共同研究機関	相手国名	主要相手国研究機関
気候変動予測とアフリカ南部における応用	3年間	山形 俊男 (独立行政法人 海洋研究開発機構 アプリケーションラボ ラボヘッド)	東京大学	南アフリカ共和国	アフリカ気候地球システム科学センター
研究課題の概要					
本研究では、アフリカ南部の気候に影響する亜熱帯ダイポールモード現象などの気候変動現象の発生と長期変動メカニズムを明らかにし、アフリカ南部社会の持続的成長に貢献することを目指す。具体的には、気候変動現象とその影響を正確に表現できる高精度の大気海洋結合モデルを用いてアンサンブル予測実験を行い、数ヶ月から数年先の気候の自然変動を予測する。この予測結果を領域モデルに取り入れて、局所的な気象現象の予測研究の推進とともに、アフリカ南部に実用的な早期予測システムを構築する。さらに、予測実験結果の解析により、気候変動現象の予測の可能性を調べるとともに、予測結果の検証作業を通して、気候モデルに用いられる雲や降水過程のパラメタリゼーションの高精度化を行う。					

環境・エネルギー分野 研究領域2 [領域特定型] 「生物資源の持続可能な利用に資する研究」					
研究課題名	研究期間	研究代表者名(所属機関・役職)	国内共同研究機関	相手国名	主要相手国研究機関
持続可能な地域農業・バイオマス産業の融合	5年間	迫田 章義 (東京大学生産技術研究所 教授)	東京大学、独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構	ベトナム社会主義共和国	ホーチミン市工科大学
研究課題の概要					
本研究では、ベトナム南部において、複合的な1次産業の副産物・廃棄物などからバイオ燃料・資材などを生産・消費する地産地消型バイオマス活用システムを設計・評価し、その具現化に必要なプロセスの設計・構築・運転を行うとともに、要素技術の研究開発を、ホーチミン市およびその近郊においてパイロットプラント規模で実施する。					

